

都市ボランティア活動における感染症リスク評価シート

このリスク評価シートは、日本財団ボランティアサポートセンターが都市ボランティア活動に潜む感染リスクを洗い出し、都市ボランティアを運営する自治体等がとることのできる感染症予防対策の工夫例をまとめたものである。
日本財団ボランティアサポートセンターでは、都市ボランティアを運営する11自治体等へヒアリングを行うことから本リスク評価シートの作成を始め、2020年7月から計6回開催した研究会を通してリスクの見直しをはかり、対策について検討を重ねた。また本研究会の顧問である三宅琢氏（神奈川県 新型コロナウイルス対策本部 技術顧問、医学博士（眼感染症））及び講師としてご登壇頂いた堀成美氏（東京都看護協会 危機管理室アドバイザー）に監修頂いた。

場面		接触感染のリスク	飛沫感染のリスク	感染対策の工夫の例
事前準備	ユニフォーム等受取	ユニフォーム等を手渡しする場面	<ul style="list-style-type: none"> 会場に大勢が一時に集まる 集まった人がマスクをはずして近距離で会話する 待機列を整理するために大声で案内する 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ時間に集合する人の人数を減らすため、集合時間をずらす 近い距離で話す場合はマスクをするよう周知する 大声を出さなくてよいように、拡声器等を用意する
	活動前	自宅を出る前	自分自身の体調に対する判断（体調不良をおして参加してしまう等）	<ul style="list-style-type: none"> 参加前から本人と同居者の体調変化（熱、咳、くしゃみ、鼻水、下痢など）に十分留意し、体調に不安のある場合は無理せず休むことを事前の研修等を通じて伝える ボランティアが休日や夜間も主催者へ連絡がとれるようにし、連絡先を周知しておく
活動中	移動	公共交通機関での移動		利用時はマスクを着用し、手洗いか手指消毒をする
	受付	体温計の共有	<ul style="list-style-type: none"> 受付を待つ人が大勢いて、受付周辺が混雑する 額にマスクをおろし、近い距離で会話する 	<ul style="list-style-type: none"> 近い距離での会話にはマスクを着用 一度に受付する人の人数が少なくなるよう、集合時間をずらす 検温する場合は非接触型にする。検温する人とされる人の距離が近くならないよう、自動測定器があるとよい
		ペン等物品の共有 その他:机、電話、PC/タブレット、電気のスイッチ 資料やパンフレット配布	<ul style="list-style-type: none"> マスクをつけずに大声で案内する 近距離で会話する 	<ul style="list-style-type: none"> 共有する電話やPC等は、あらかじめ消毒する時間を決めておく（頻度を高くするより実行可能な回数にする） 受付デスクに手指消毒剤を設置する 受付の手順を簡素化する 大声を出さなくてよいように、拡声器等を用意する
	活動前ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> 貸与する活動グッズ ボランティア同士の握手、ハイタッチ 	マスクをつけずに大声で説明する	<ul style="list-style-type: none"> ハイタッチに代わる肘タッチなどの代替案を周知する 握手やハイタッチをしたら、手を洗ったり、手指消毒したりするよう、活動までに研修等で伝える 大声を出さなくてよいように、拡声器等を用意する マスクをつけずに説明する場合、話す人は他の人との距離を1m以上とる 距離が取れない場合は、正面に立って会話しないようにしたり、話す人の前にアクリル板等を置いたりする
	活動中	<ul style="list-style-type: none"> 写真撮影（カメラ、密） 落とし物を拾う チラシ等の配布 	<ul style="list-style-type: none"> 写真撮影（掛け声） マスクをはずし、近づいた状態で地図等を見せながら案内する マスクをせずに大声で案内する 不特定多数の人たちと会話する ※ボランティアは暑さのためマスクをはずすことが想定される 	<ul style="list-style-type: none"> 落とし物を扱ったら、手を洗いか手指消毒をする マスクをはずしている間、一定の距離を取るよう周知する 写真を撮る人は一定の距離を取って掛け声をかける マスクの着用 チラシ等を配布する前に手指消毒をする。
休憩中	机・椅子などの共有	<ul style="list-style-type: none"> 食事時の会話 休憩室での隣の人との距離 部屋の換気 	<ul style="list-style-type: none"> 椅子など多くの人が触れる場所の消毒 ドアや窓を開け放す 「マスクをはずして飲食する場面がもっとも感染リスクが高い」ことと、その対策を事前の研修で十分に伝える ※ボランティアは気持ちの高揚、緊張、疲れなど様々な状態にあることが想定されるため、十分な注意喚起を行う必要あり 	
活動後	懇親	<ul style="list-style-type: none"> 同じ箸を使って取り分ける 飲み物の回し飲み 	<ul style="list-style-type: none"> 近い距離で、大声で会話する 	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大の状況に応じて、自粛も検討したり、実施する場合には少人数にするなど、対策を講じるように促す 「マスクをはずして、飲食する場面がもっとも感染リスクが高い」ことと、その対策を事前の研修で十分に伝える ※ボランティアは気持ちの高揚、緊張、疲れなど様々な状態にあることが想定されるため、十分な注意喚起を行う必要あり